

## 米シリア攻撃

# 支持根拠問われる首相

## 野党批判「整合性ない」

参院外交防衛委員会が十三日開かれ、安倍晋三首相がシリアを攻撃した米国の「決意」を支持したことの是非が議論された。首相は二〇一三年に当時のオバマ政権がシリア空爆を検討した際には、シリア軍による化学兵器使用の証拠を示すよう米国に求めた。今回は証拠が明確でないのにトランプ大統領を支持しており、野党は整合性に欠ける対応と批判した。(新開浩)

首相は同委員会、シリアについて「詳細は国連機関を待ちたい」と説明。先進国による化学兵器使用疑惑が調査中であり、その結果「七カ国(G7)外相会合が

2013年9月 首脳会談

シリアを空爆するから支持してほしい

化学兵器を使った証拠を見せて

オバマ前大統領

安倍首相

2017年9月 電話会談

化学兵器が二度と使われないように攻撃した

米国の決意を支持する

トランプ大統領

シリア攻撃を巡る日米首脳の対話

米国の軍事行動に理解を示す共同声明を発表したことなどを強調し、自らの支持

表明に理解を求めた。これに対し、民進党の藤田幸久氏は、首相が今年二月に国会で答弁した内容との矛盾を指摘した。

答弁によると、首相は一三年九月の日米首脳会談でオバマ大統領からシリア空爆への支持を要請された際、シリアの化学兵器使用の証拠を示すよう要求した。米国が〇三年にイラクのフセイン政権の大量破壊兵器保有を理由にイラク戦争を開始した際、日本は支持したが、その後大量破壊兵器が見つからなかった

経緯を踏まえ「証拠を示さないなら、イラクの経験があるので国民に説明できない」と指摘。オバマ氏は首相に証拠を提示したという。

藤田氏が「トランプ氏からは証拠を得たのか」と質問すると、首相は「今回は攻撃した後の説明だ」と、事前に空爆への支持を求めたオバマ氏との違いを指摘。さらに、米国による攻撃そのものではなく、化学兵器の使用と拡散を許さないという「米国の決意」に対する支持であると重ねて強調した。